



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り 5月号
平成27年4月30日
横浜市立旭小学校

「やった！」がたくさん聞かれる学校に

学校長 加藤 和之

新年度が始まって1カ月、陽射しは早くも初夏の輝きになってきました。明るい光を浴びながら、子どもたちは元気に毎日を過ごしています。どの学年も、落ち着いて学習に取り組むとともに、「今年は〇〇を頑張りたい。」という意欲をもっている子も多いように感じます。今のその気持ち大切に頑張ってもらいたいと思っています。

さて、このひと月「今年度、旭小をどんな学校にしていくか。」ということに思いを巡らし、学校教育目標や中期学校経営計画、今まで築かれてきた素晴らしい実績などを土台に、具体的な姿での「目指す学校像」を描いてみました。浮かび上がったのは、「**自分の思いや願いが実現できる学校にしたい。**」ということです。

子どもは、「こんなことができるようになりたいな。」「こんなクラスになるといいな。」という「思いや願い」をもっていると思います。高学年になると「委員会でこんな活動ができれば、みんながもっと楽しい学校になるのにな。」などと考える子もいるでしょう。人はこのような「思いや願い」をもって自ら働きかけ、それが実現した時、さらなる成長に向けて動き出します。学校は、そんな子どもたちの「思いや願い」が実現できる場でありたいと思うのです。そのために、学習面では「日々の授業の充実」や「できた喜びが味わえるような活動づくり」などに力を入れなくてはなりません。生活面では、「誰もが安心して豊かに生活できる」ことを基盤に、一人ひとりに寄り添う支援をしていく必要があります。私たちは、「子どもの思いや願いを実現させる。」ことを主眼に置いて教育活動を見直し、実践していきたいと思っています。

「思いや願い」を実現させたいのは、子どもだけではなく、教職員も「子どもにこんな力をつけたい。」「こんな授業をしてみたい。」「もっと子どもの困り感に寄り添いたい。」といった「思いや願い」をそれぞれがもっています。それを実現させるために、子どもの姿をもとに授業について語り合う時間を大切にします。そして、「今までは～～だった。」ということにとらわれずに、柔軟な発想で取り組む、創造的な教職員集団を目指したいと思います。そうなることが、そのまま子どもたちに還ってくるのですから。

しかしながら、単に「あれもこれも」というわけではありません。教職員の「負担軽減」が喫緊の課題であることは、教育委員会から出されたプリントからも明らかです。朝早くから、時には深夜まで業務にあたることも少なくない実態があります。教育活動を見直し、「本当に必要なものは何なのか。」ということをも面的に考え、既存の取組を精査していくことも必要であると考えています。同時に、保護者、地域の皆様に気軽に教育活動に参画していただくことで、皆様にも「子どもと一緒に活動する喜び」を感じていただけたらと思います。多くの目で見守られていることは、子どもに安心感を与えると同時に、豊かな学びを実現することにもつながります。保護者、地域も含めた「チーム旭」ができれば...と、夢は広がります。

自分の「思いや願い」を実現できた子どもたちの、「**やった!**」という声がたくさん聞こえる学校づくりのため、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

5月の取組目標



生活目標

友だちとなかよく遊ぼう

保健目標

外で元気に運動しよう

清掃目標

教室の床や廊下をきれいにしよう

給食目標

食事のマナーを身につけよう